第１３７５回　　京都市教育委員会会議　　会議録

１　日　　時　平成２９年６月１日　木曜日
　　開会　１０時００分　　閉会　１１時３０分

２　場　　所　京都市役所内　教育委員室

３　出 席 者　　教　育　長　　在田　正秀
　　委　　員　　星川　茂一
　　委　　員　　奥野　史子
　　委　　員　　鈴木　晶子
　　委　　員　　髙乗　秀明
　　委　　員　　笹岡　隆甫

４　欠 席 者　　なし

５　傍 聴 者　　２人

６　議事の概要

（１）　開会

１０時００分，教育長が開会を宣告。

（２）　前会会議録の承認

第１３７４回京都市教育委員会会議の会議録について，教育長及び全委員の承認が得られた。

（３）　議事の概要

ア　議事

報告１件

イ　報告事項

報告　「『新定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ』まとめ」の策定について

（事務局説明　辰巳　学校指導課担当課長）

全国的に，夜間定時制では，勤労青少年の学習の場としての役割が薄れる一方，様々

な課題を抱える生徒の学習の場としての役割が高まってきている。

こうした状況の下，有識者も参画した「新しい定時制高校創設プロジェクト」での協議や市民意見募集を経て，「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」を平成２７年７月に取りまとめた。

このまとめに基づき，両校がこれまで培ってきた教育活動や機能を結集するため，両校を再編・統合し，「学び直し」を求める生徒や「引きこもり傾向」にある生徒など，様々なニーズに対応する「基本構想」を平成２７年８月に策定した。

この「基本構想」の下，平成２７年９月に，両校及び総合支援学校の管理職や教員，教育委員会事務局職員からなる「ワーキンググループ」を設置し，「教育課程・教育内容」，「指導及び支援体制」等を具体化するための検討課題について，２８回にわたり議論を重ねてきた。

平成２８年１２月には「まとめ（案)」を取りまとめ，翌年１月から約１ヶ月間をかけて「まとめ（案)」に対する市民意見募集を実施し，４１４件もの貴重な御意見を頂戴している。

この度，市民の皆様から頂いた御意見等を踏まえ，更にワーキンググループで議論を重ね「まとめ」として取りまとめたので，御報告する。

まず，「まとめ（案)」に対する市民意見について。３１０名の皆様から御意見を頂戴し，そのうち１０４名は，伏見工業高校・西京高校の両定時制に在籍する生徒である。

応募者については，両定時制に在籍している生徒をはじめ，学校に子どもを通わせている世代からの御意見を多く頂戴できたのではないかと推察している。

次に，「まとめ」への市民意見の反映について御説明する。

資料③１ページ「１．はじめに」の末尾に，「また，本『まとめ』の策定にあたって」以降を追記している。本市民意見募集に対し，４１４件もの貴重な御意見を頂戴し，また，「新定時制単独高校への期待」に分類される御意見として６８件頂戴している。改めて，新定時制単独高校に対する期待・関心の高さを実感するとともに，市民意見募集結果の総括及び新校への期待や関心の高さに対する本市の今後の抱負とし，このような形でまとめに反映させている。

資料③３ページ「②　育てる生徒像」について。本文４行目に「自己肯定感や自己有用感とともに」を追記している。また，同じく本文８行目に「授業や学校行事，地域や社会と関わる」を追記している。

資料③５ページ「①　検討の土台」１行目において，「一人ひとりの生徒に対してきめ細かく支援することに加えて，生徒が集団の中で幅広い体験をすることで育まれる社会性を大切にすることを念頭に置き」に修正している。これは，前回の教育委員会での御議論も踏まえて修正したものである。

資料③６ページ「②　教育課程」について。本文４行目に「基礎的な学力の定着を図るとともに，生徒の興味・関心を引き出し，能力の伸長を目指す授業とするなど工夫を図る」を追記している。

資料③７ページ「①　一クラスあたりの適正人数」について。本文１行目に「一人ひとりの生徒が自分のペースで学ぶだけではなく，集団の中での学習や活動を通して，社会性や主体性を育む」を追記している。

資料③９ページ「（３）きめ細かい指導及び支援体制等について」。本文４行目に「午前中の活用のあり方」を追記している。こちらについては，午前中の活用に関する御意見の趣旨を踏まえ，まとめに反映させている。同じく本文８行目に「これまで培ってきた生徒にきめ細かく対応し，保護者と協働することを基盤とした教育実践」を，本文下から５行目に「熱意と意欲あふれる教職員，スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー，総合育成支援教育に関するアドバイザー，キャリアアドバイザーなどを配置し，各分野の専門家と協働しながら，関係機関と緊密な連携を図り，一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援や配慮を実現できる組織体制の確立に向けた」を追記している。

「まとめ」への市民意見の反映についての説明は以上である。

最後に，「主な事務スケジュール」について。平成２８年１２月から基本設計・実施設計に着手しており，今後，既存校舎の改修や校舎新築工事など早期開校を目指し，進めてまいる。

なお，先日の教育福祉委員会では趣旨に御賛同いただく意見とともに，府立清明高校との違いを明確にするようにといった御意見を頂戴している。

（委員からの主な意見）

【在田教育長】　１２月の教育委員会でまとめ（案）を報告したが，その際の意見も反映させている。

市民の皆様からの意見も同じような内容が多かった。

【星川委員】　両校生徒１０４名から意見があったとのことだが，主な意見を教えていただきたい。

【事 務 局】　趣旨に賛同，夜間定時制を残してほしい，柔軟な教育システムに賛同，といった意見であった。また，施設整備に関する意見も多く頂戴した。

【星川委員】　ＷＧまとめにある今後の検討課題について，教育内容は今後どのように検討を進めていくのか。

【事 務 局】　現在，学校と教育委員会からなる「開校準備チーム」を立ち上げ，具体的な検討を進めている。教育内容の検討はこれから進めていく。

【星川委員】　教育福祉委員会で委員の先生から「求める生徒像」という表現に対し，「選別するのか」といった意見があった。個人的には高校だからある程度明確な意思を持って入学する必要があると思っている。しかし一方で「求める生徒像」に掲げられているところまで到達していない生徒にとっては，「新しい高校が期待する生徒」というような，少しやわらかい表現でもよいのではと感じた。また検討いただきたい。

【事 務 局】　御指摘のとおり，学習意欲を外に出せない生徒もいる。そういった生徒

に対しては，中学校との連携が重要だと考えている。支援学校では複数回の説明会を開催するなど，ミスマッチが極力起きないよう工夫して取り組んでいる。そういったことも踏まえ，検討していきたい。

【笹岡委員】 ３２年度開校予定とのことだが，３０年度・３１年度入学生は，新校が開校すればそちらに通学することになるのか。

【事 務 局】 一般論では新しい教育環境・内容があればそちらに通学することになるが，定時制に通う生徒の中には，環境の変化が苦手な生徒等も在籍している。生徒にとってどの形が一番良いのか，学校現場と検討していきたい。

【髙乗委員】 清明高校は新しく斬新。通いたくなるような学校づくりを期待している。施設整備について在校生から意見が出ているとのことだが，教員や生徒の意見が反映されるような設計の仕組みはあるのか。節目の段階で意見を聞くということも必要ではないか。

【事 務 局】 ＷＧ等で現場の意見を聞きながら，関係課でソフトに応じたハードの内容を計画している。今回の市民意見募集で頂戴した意見も参考にさせていただく。

【奥野委員】 １０４名の生徒から意見があったとのことだが，これまでの市民意見募集で，これほどまでに生徒から意見が寄せられたことはあるのか。

【事 務 局】 新普通科系高校創設プロジェクト中間まとめに関する市民意見募集の際には，塔南高生から多数意見をいただいた。そういった例も参考に今回配布したが，想像以上に生徒から意見があった。

【奥野委員】 困りを抱えた生徒の意見は大切。学校が統合・再編されることに対する不安を感じている意見が見受けられる。

【事 務 局】 そういった生徒にも配慮しながら進めていきたい。

【鈴木委員】 細かい点まで配慮いただきながら進めていただいている。生徒と教員が同じ方向に向いて取り組んでいる，その姿勢を大切に。また，ものづくりが人づくりに繋がっているこれまでの伝統を引き継ぎながら進めていただきたい。ＩＣＴはツールで留めてはいけない。コミュニケーションの手段やキャリア形成の手段としても活用できるよう，外部との連携も含め，検討を進めていただきたい。

【事 務 局】 新校では遠隔教育も検討している。全国でも例がない分野である。委員御指摘の観点からも検討を進めていく。

【在田教育長】 本市教育の伝統である「一人ひとりの子どもたちを徹底的に大切にする」を体現するような学校を目指していく。

（４）その他

〇教育長から，前会会議以降の主な出来事等について報告

平成 30 年度京都市立学校教員採用選考試験出願
5 月 23 日　教育福祉委員会
5 月 26 日　大淀中学校への寄付受納式

〇事務局から当面の日程について説明

（５）閉会
１１時３０分，教育長が閉会を宣告。
署　名　　教育長